

1-2 十勝支庁北部の群発地震活動（1989年3月～11月）

Earthquake Swarm in the Northern Part of the Tokachi District (March–October, 1989)

北海道大学 理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

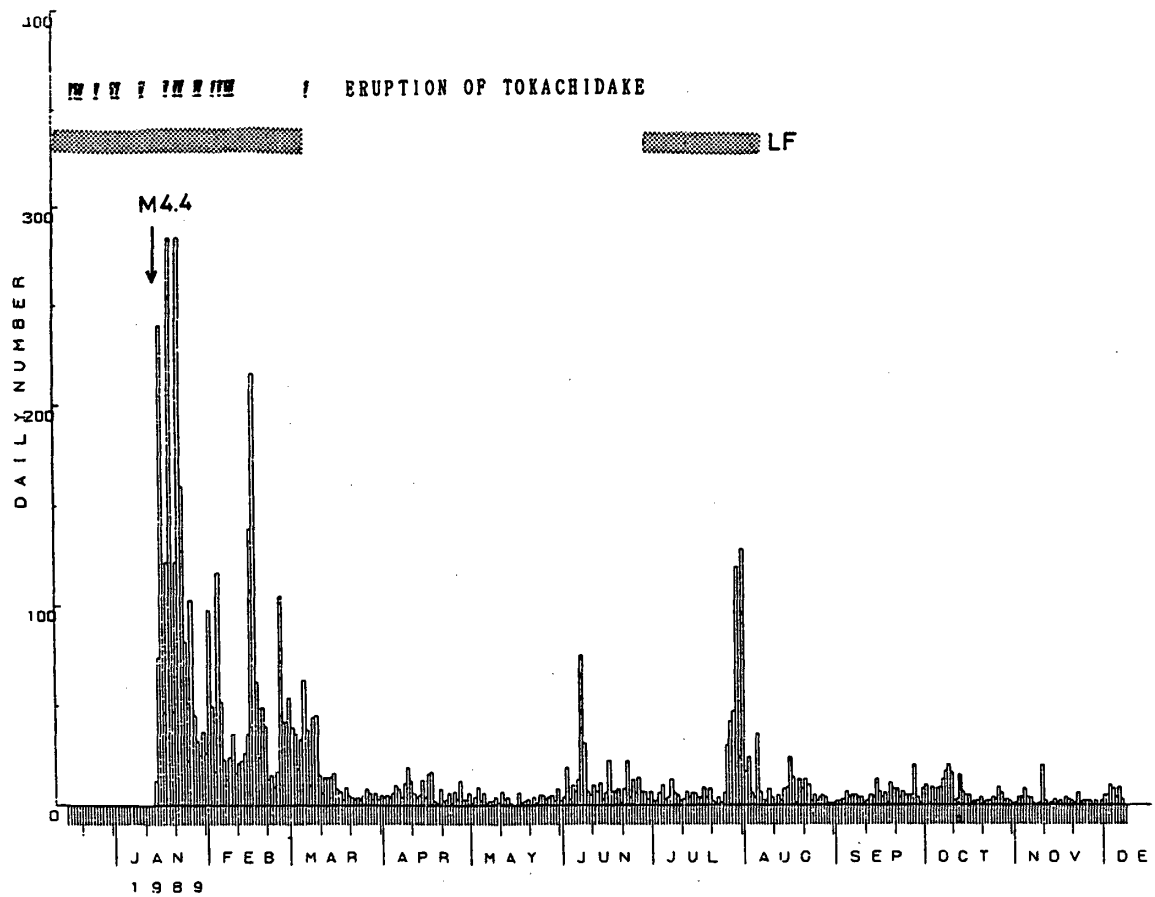
前回報告¹⁾した北海道十勝支庁北部の群発地震活動（最大M4.4）は12月現在も弱いながらも続いている。第1図に定常観測網で検知されたM1.5以上の地震回数が見られている。活発であった1989年1～3月以後、6月初旬と7月下旬に地震数がやや増加した。十勝岳の火山活動²⁾と今回の群発地震活動とに若干の関連がありそうである。

第2図に臨時観測による震央分布が見られている。東大雪丸山を中心にして見ると、今まで北西側で活発であったものが、10月には南南東側でも集中的に起こった。これにより、東大雪丸山を挟むように震源が分布しているようにみえる（第3図）。震央の線状配列の方向（北西－南東）は東大雪丸山の火口配列³⁾及び最大地震M4.4のメカニズム解P軸の方向とほぼ同じである。

（鈴木貞臣）

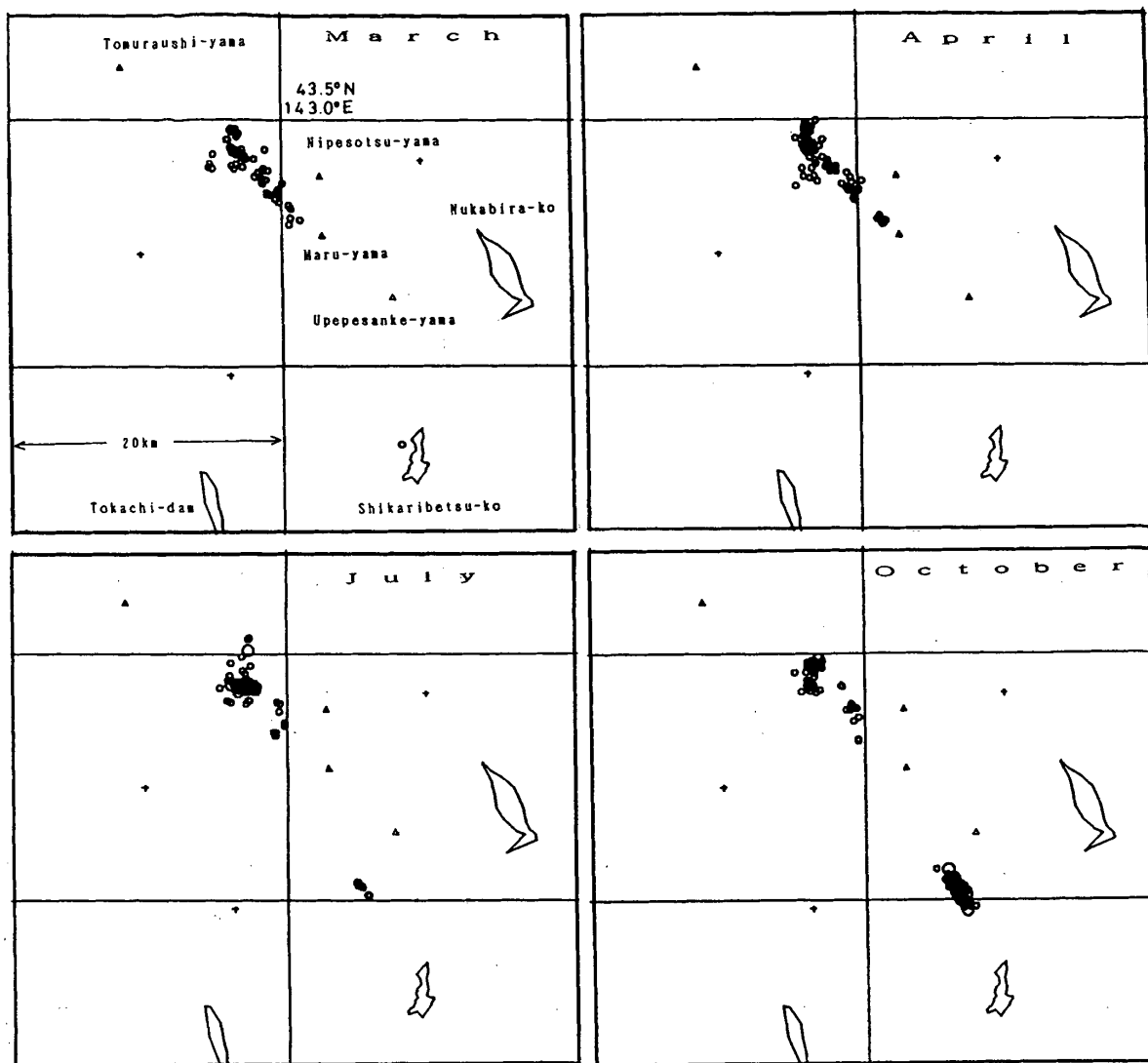
参 考 文 献

- 1) 北海道大学理学部：十勝支庁北部の群発地震活動（1989年1月～5月），連絡会報，42（1989），13-15.
- 2) 西村裕一，他：十勝岳の火山性地震の分類と特性，日本火山学会講演予稿集（1989年秋季），42.
- 3) 近堂祐弘，他：東大雪山系丸山火山の最新の活動，日本火山学会講演予稿集（1989年秋季），160.



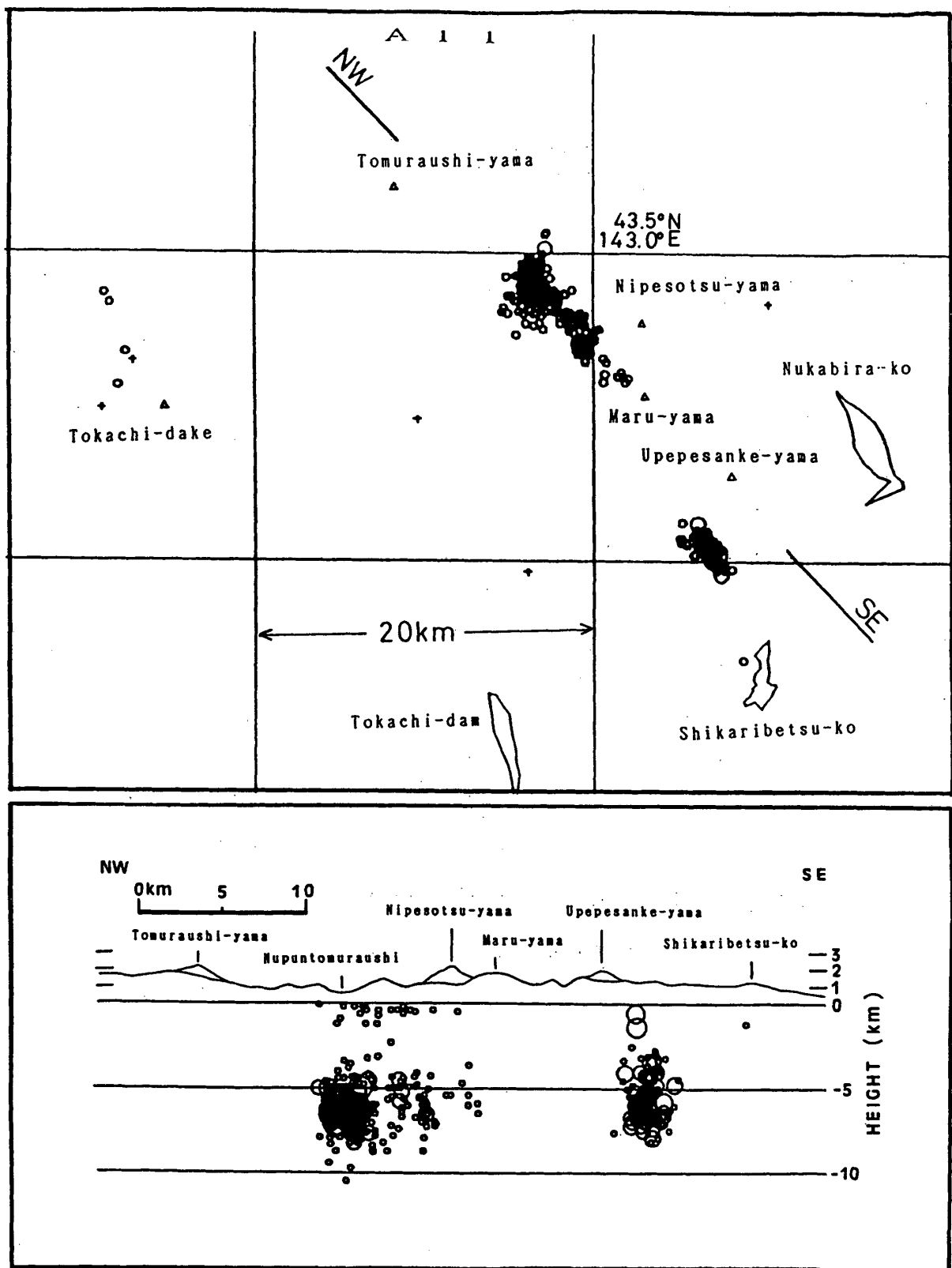
第1図 定常観測による $M \geq 1.5$ の地震回数 上部に十勝岳の噴火と長周期地震 (LF) の活動期²⁾が示されている。

Fig. 1 Daily number of events ($M > 1.5$) and activity of Mt. Tokachi.
!: Eruption. LF: Low-frequency earth quake.



第2図 臨時地震観測網による詳細な震央分布 (1989年3月-10月)

Fig. 2 Epicentral distribution of earthquakes.



第3図 第2図の地震の震源分布

Fig. 3 Hypocentral distribution of earthquakes occurring from March to October, 1989.